

別記第1号の2様式

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：株式会社クリエ

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
1 職務の理解	6 時間
(1) 多様なサービスの理解	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間
(1) 人権と尊厳を支える介護	
(2) 自立に向けた介護	
3 介護の基本	6 時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	
(2) 介護職の職業倫理	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	
(4) 介護職の安全	

実施計画			
カリキュラム名・時間数		実施内容	
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	
(1) 同左	3	(1) 講義及び演習：介護保険や保険外サービスについて講義を行い、介護サービスのありかたや意味についてグループディスカッションする。	
(2) 同左	3	(2) 講義のみ	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	
(1) 同左	5	(1) 通信講習、講義及び演習：人権と尊厳について講義を行い、介護における人権のあり方についてグループディスカッションする。	
(2) 同左	4	(2) 講義及び通信講習	
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	
(1) 同左	2	(1) 講義及び通信講習	
(2) 同左	2	(2) 通信講習、講義及び演習：介護職の職業倫理について講義後、介護職としての社会的役割などについてグループディスカッションする。	
(3) 同左	1	(3) 講義及び通信講習	
(4) 同左	1	(4) 通信講習、講義及び演習：安全について講義を行い、ストレスマネジメントのあり方についてグループで討議をし発表する。	

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6 時間	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6 時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 同左	3	通信講習、講義及び演習：介護保険制度について講義を行った後、介護保険サービスの実際の利用方法について事例検討や介護報酬計算のグループワークを行う。	
(2) 同左	3	(2) 講義及び通信講習	
(3) 同左	3	(3) 通信講習のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 同左	3	(1) 講義及び通信講習	
(2) 同左	3	(2) 通信講習、講義及び演習：グループワークにて介護に関する記録の方法を体験する。	
6 老化の理解 6時間		6 老化の理解	
(1) 同左	3	(1) 講義及び通信講習	
(2) 同左	3	(2) 通信講習、講義及び演習：高齢者と健康について講義を行った後、高齢者の健康・生活上の留意点や代表的な生活習慣病についてグループディスカッションする	
7 認知症の理解 6時間		7 認知症の理解	
(1) 同左	1.5	(1) 講義及び通信講習	
(2) 同左	1.5	(2) 講義及び通信講習	
(3) 同左	1.5	(3) 通信講習、講義及び演習：認知症利用者の生活障害などについて講義を行い、グループで事例検討・発表を行う。	
(4) 同左	1.5	(4) 通信講習、講義及び演習：家族への支援について講義を行い、介護職員がどのように家族をケアしていくかなどをグループ討議し発表する。	

別記第1号の2様式

8 障害の理解 3時間	
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75時間	
ア 基本知識の学習 10～13時間	
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間	
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解 3時間	
(1) 同左	1
(2) 同左	1
(3) 同左	1
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75時間	
ア 基本知識の学習 13時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	5
(3) 同左	5
イ 生活支援技術の講義・演習 50時間	
(4) 同左	3.5
(5) 同左	3.5
(6) 同左	9
(7) 同左	9
(8) 同左	4

8 障害の理解	
(1)	通信講習、講義及び演習:障害の基礎について事例に基づき講義を行い、障害の概念やICFについてグループディスカッションする。
(2)	通信講習、講義及び演習:障害の医学的側面などについて講義を行い、各障害の特徴や支援の考え方についてグループ討議し発表する。
(3)	講義及び通信講習
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1)	講義及び通信講習
(2)	講義及び通信講習
(3)	通信講習、講義及び演習:からだのしくみについて講義を行い、ボディメカニクスについては実際の場面を想定して姿勢をとって実技演習も行う。
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4)	通信講習、講義及び演習:家事と生活の理解について講義を行い、グループで献立を作成し発表する。
(5)	通信講習、講義及び演習:居住環境の基礎知識について講義を行い、快適な居住環境についてグループ討議をし発表する。
(6)	講義及び演習:整容の意義について講義を行い、着脱介助や口腔ケアの実技演習を行う。
(7)	講義及び演習:移動・移乗に関するからだのしくみについて講義を行い、移乗・移動介助の実技演習を行う。
(8)	講義及び演習:食事の意味や環境整備の方法について講義を行い、食事介助の実技演習を行う。

別記第 1 号の 2 様式

(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4 時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (1 3 0 時間)	

(9) 同左	9	講義及び演習：入浴や清潔の意味や環境整備の方法について講義を行い、全身清拭や部分浴の実技演習を行う。
(10) 同左	7	(10) 講義及び演習：排泄の意味や環境整備の方法について講義を行い、排泄の方法等の実技演習を行う。
(11) 同左	1. 5	講義及び演習：睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法について講義を行い、ベッドメイキングの実技演習を行う。
(12) 同左	3. 5	(12) 講義及び通信講習
(実習)※ 時間		(実習)※
ウ 生活支援技術演習 12時間		ウ 生活支援技術演習
(13) 同左	3	(13) 講義及び演習：介護過程の目的や意義について講義を行い、個別援助計画の作成を行う。
(14) 同左	9	講義及び演習：事例の意義や留意点について講義を行い、事例に基づきグループ討議をし発表する。また生活支援技術の評価のため実技試験を行う。
10 振り返り 4時間		10 振り返り
(1) 同左	3	(1) 講義のみ
(2) 同左	1	(2) 講義及び演習：働く現場における継続的学習等について講義を行い、それぞれのキャリアプランを作成し発表する。
計 (1 3 0 時間)		

別記第 1 号の 2 様式

※「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、1 2 時間以内とする。